

「チュラーロンコーン大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学法学部2年 黒田 航

今回のチュラーロンコーン大学サマースクールに参加する前、私は事前講習の5日間ほどしかタイ語を学習したことがなかった。しかし、2週間の短期研修中で私のタイ語は幾分上達した。タイ語の授業は英語で行われて、タイ文字を使うことはなく、多くが初心者である私たちに合わせたレベルであった。授業の中だけでなく、タイの学生から単語を教えてもらったり、食堂で食べ物を注文したりするなかで、タイ語に慣れていくことができた。タイ文字はいたるところで見かけるものの、いくつかの容易な文字と自分の名前やニックネームに入っている文字しか使うことができない。タイ文字の習得は今後の大きな学習課題である。

私にとってタイを訪れるのは、今回が初めてであったが、訪れるときに不安はなく、ただわくわくした気持ちで満ち溢れていた。というのは、タイに頼れる友人がいるからである。京都サマープログラムで出会ったそのすばらしい友達と、タイで出会った新たな友達はいつも私たちのことを気にかけてくれた。彼ら彼女らとともに、ショッピングモールや観光地に行き、食事を楽しんだことは忘れることのできない思い出である。本当に感謝している。ところで、私がタイで驚いたことは沢山あるが、その中で特に驚いた二つのことを振り返ってみたい。1つは、街の様々なところに歴代の国王やその一家の方々の写真や肖像が飾られていたり、毎日2度決まった時間に国歌が流されたりすることである。ビルの側面に前国王の姿が大きく描かれているのには驚嘆した。タイの人々がいかに彼を敬愛しているかを物語っているようであった。また、国歌が流れ始めると、人々は立ち止まり、中には歌い出す人もいる。映画館では本編の開始前に国歌ではないが国王賛歌が必ず流されるのも興味深い。もう1つ私を驚かせたのは、都心部にある日本食レストランの多さである。ショッピングモールのレストラン街にあるお店の半数以上は日本料理店である。日本よりも日本レストランが多いのである。これは、日本人として、日本食が受け入れられていることをうれしく思うと同時に、異国にいる気がせず少しつまらなくも感じた。私たちはできるだけタイ料理店を選びながらも、数回だけ日本食も口にした。味はメニューによって、日本と同じものから、タイ風にアレンジされているものまでであったが、総じて美味しかった。

このチュラーのサマープログラムでは、タイ語の授業、実地研修、タイ料理クラス、そして共同発表が主な内容である。実地研修は2日間あり、1日はエメラルド寺院と王宮を訪れ、もう1日はアユタヤへ旅をした。また、アユタヤでは象に乗る体験もすることができた。タイ料理クラスでは、ソムタムなど易しい料理を作った。唐辛子を入れすぎると辛くて食べられない。共同発表では、どのグループもテーマは祭りと決められていた。各グループは、具体的にタイの祭りと日本の祭りを1つずつ選び、それらを比較する。

チュラーでの2週間はあっという間に過ぎってしまった。タイのことが好きになった私は必ず戻ってくることを決意した。やはり、物質的にも精神的にも生活しやすいという感想が率直に出てくる。私は半年ほど前、インドネシアに行ったところから、東南アジアに惹かれている。今回タイを訪れて、その気持ちは増した。私は、人生のいくらかの時間をタイで生活しようと思う。東南アジアの広い地域を視野に入れることのできる仕事をするのができれば面白いに違いない。そして、チュラーや京大の友人との関係が将来に渡って継続し、また彼ら彼女らと再会することを願っている。